

抗議声明

福井県知事の40年超え老朽原発の再稼働同意に抗議する 5月末頃の原子炉起動を止めよう

福井県知事は本日（4月28日）、国内初となる40年超え美浜3号、高浜1・2号の再稼働に同意を表明した。県民や周辺住民の反対や不安の声を踏みにじった表明を断じて許すことはできない。

知事は昨日の経産大臣と関電社長との面談によって、「将来にわたって原子力を持続的に活用していく」「安全確保に万全を期す」という「覚悟と決意」を確認し、美浜・高浜原発で50億円の新交付金を得ることで同意した。住民の安全を蔑ろにしている。

知事は、国と関電の「覚悟と決意」を確認したというが、現実はどうか。

- 高浜2号は、新規規制基準で定められている電気ケーブルの火災防護対策が未完であるにも関わらず、いち早く再稼働に同意した。原発視察もパフォーマンスだ。
- 高浜1・2号は特重施設（テロ対策等施設）が未完のため、6月9日までに運転停止に追い込まれる。関電のスケジュールに合わせて仮に運転を開始しても、わずか1～2週間しか運転できない。美浜3号も10月には同様の理由で運転停止となる。それでも「老朽炉国内初の再稼働」という実績作りを手助けし、50億円を手に入れる。
- 昨年12月の大阪地裁判決が示したように、老朽原発でも地震規模の「ばらつき」を考慮すれば、基準地震動は過小評価のまま。美浜3号は、993ガルが1,330ガルに、高浜1・2号も700ガルが約1,100ガルに跳ね上がり、耐震性の保証はない。また、中性子脆化で脆くなった原子炉圧力容器は取替ができない。
- 私たちが実施した避難先アンケートでは、コロナ禍では避難所が足りないことが明らかになっている。福井県は「事故後に調整する」と答えるだけ。これでは住民は避難さえできない。
- 県知事が求めている「県外での中間貯蔵施設」も先送りのままだ。関電は2023年末までに候補地を示すと「覚悟」の弁を述べたが、むつ市長は「関電の使用済燃料は受け入れない」「核のゴミ捨て場ではない」と改めて表明している。
- 高浜原発で現に発生している使用済MOX燃料の処理・処分の方法さえ決まっていない。福井県が核のゴミ捨て場になる。「覚悟と決意」ではなく、既に破綻している原発・核燃料サイクルの現実に目を向けるべきではないのか。

事故になれば、福井県民はもとより、関西一円に甚大な被害が及ぶ。1,450万人の命の水源地である琵琶湖は汚染され、高浜原発からわずか2時間でプルームは神戸に到達する。

県民・周辺住民の命と安全を守るため、福井と全国の運動が連携して、5月末頃の原子炉起動を止めよう。

エネルギー基本計画改定に向けた原発推進に反対しよう。福島原発事故を繰り返してはならない。

2021年4月28日 避難計画を案ずる関西連絡会

（連絡先団体：グリーン・アクション/ 原発なしで暮らしたい丹波の会/ 脱原発はりまアクション/
原発防災を考える兵庫の会/ 美浜の会/ 避難計画を考える滋賀の会）

この件の連絡先 グリーン・アクション 京都市左京区田中関田町22-75-103 TEL：075-701-7223

美浜の会 大阪市北区西天満4-3-3 星光ビル3階 TEL：06-6367-6580